

育児中の女性における社会経済状態と自尊感情との関連

○神谷 義人^{1, 2}、喜屋武 享³、高倉 実⁴、金城 昇⁵、仲宗根 正⁶

¹名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科、²琉球大学大学院保健学研究科、

³沖縄女子短期大学、⁴琉球大学医学部保健学科疫学・健康教育学分野、

⁵琉球大学健康づくり支援プロジェクト Lib、⁶南部保健所

I. 緒言

神谷ほか(2020)は世帯の経済状況と子どもの生活習慣との関連を検討した結果、世帯の経済状況が良くないほど乳幼児の生活習慣が好ましくない状況にあること、また、世帯の経済状況が中等度によくない世帯では、母親の自尊感情(セルフエスティーム; 以下、SE)が乳幼児における好ましくない生活習慣を緩衝する可能性について報告した。乳幼児を育てる母親の SE を高めることは自身のみならず家族、子どもの健康へも好影響を及ぼすことが考えられる。本研究は、育児中の女性における所得階層および学歴と SE との関連について検討することを目的とする。

II. 方法

1. 対象者および調査方法

本データは沖縄県 A 市が子育てや教育など子どもに関連する施策等に活用することを目的とした「こどもの生活等に関する調査」の結果を二次的に用いた。対象は A 市に在住する 0 歳から就学前児童の保護者とし、住民基本台帳より 3,580 人を無作為抽出した。調査方法は、郵送法による無記名自記式質問紙調査であった(回収率 44.6%)。調査は 2018 年 9 月～11 月に実施した。

2. 調査内容

社会人口統計学的データは年齢、配偶者の有無、子どもの数、世帯類型、就業の有無(パート、アルバイト含む)、世帯収入、親

の学歴とした。SE は自尊感情尺度日本語版(桜井, 2000)を使用した。本尺度は Rosenberg (1965) の self-esteem 尺度の邦訳版である。10 項目それぞれについて、“そう思う”、“ややそう思う”、“あまりそう思わない”、“そう思わない”の 4 件法(3～0 点)で回答を求めた。高得点ほど自尊感情レベルが高いことを示す。

3. 分析方法

本研究では、分析対象を母親に限定し、該当した 1,430 名のデータを分析した。

世帯の経済状態の指標である所得階層は、等価可処分所得を算出し、平成 29 年度沖縄県未就学児調査と同様、困窮度が低い順に「一般層(等価可処分所得 183 万円以上)／低所得層 II(等価可処分所得 122～183 万円未満)／低所得層 I(等価可処分所得 122 万円未満)」と 3 つに区分した。学歴は「中・高卒／短大・専門卒／大卒以上」の 3 群にカテゴリ化した。

分析は、所得階層 3 群と学歴 3 群を組み合わせた 9 つの群における SE を比較検討するため一元配置分散分析を行った。有意な関連を認めた場合は多重比較(Tukey 法)を行った。

4. 倫理的配慮

本研究は琉球大学人を対象とする医学系研究倫理審査委員会の承認を得た。

III. 結果

対象者の特性は、表 1 の通りであった。9 群間で SE の平均値を比較したところ、有意な関連がみられた (表 2、図 1)。「一般層／大卒以上」と比較して、「低所得層 I／中・高卒」、「低所得層 I／短大・専門卒」、「低所得層 II／中・高卒」は有意に SE が低かった。「一般層／短大・専門卒」と比較して、「低所得層 I／中・高卒」は有意に SE が低かった。「一般層／中・高卒」と比較して、「低所得層 I／中・高卒」は有意に SE が低かった。また、「低所得層 II／大卒以上」と比較して、「低所得層 I／中・高卒」「低所得層 I／短大・専門卒」、「低所得層 II／中・高卒」は有意に SE が低かった。

IV. 考察

育児中の女性における社会経済状態と SE との関連を検討した結果、以下の点が明らかとなった。

- ・所得階層が一般層であれば、学歴による SE の差はみられない。
- ・所得階層の差があっても、大卒以上では SE の差はみられない。
- ・低所得層で学歴による SE の差がみられる。

本研究の結果は、低所得かつ学歴が低いと母親の自尊感情が低いことを示唆した。低所得層への支援を重点的に行うことによって生活が安定し、その結果母親の自尊感情を高めることにつながる可能性が考えられた。

表 1 対象者の特性

	全体 n=1,430	
母親の年齢 (n, %)		
10代	5	0.4
20代	241	16.9
30代	827	57.8
40代	342	23.9
不明・無回答	15	1.0
配偶者の有無 (n, %)		
有り	1,316	92.0
無し	114	8.0
子どもの数 (n, %)		
1人	415	29.0
2人	531	37.1
3人	316	22.1
4人	125	8.7
5人以上	43	3.0
世帯類型 (n, %)		
核家族	1,214	84.9
ひとり親	76	5.3
その他	140	9.8
母親の就業の有無 (パート、アルバイト含む) (n, %)		
就業有り	1,107	78.4
就業無し	305	21.6
所得階層 (n, %)		
一般層	671	50.8
低所得層 II	331	25.0
低所得層 I	320	24.2
母親の学歴 (n, %)		
中・高卒	465	33.7
短大・専門卒	564	40.9
大卒以上	335	24.3
その他	15	1.1
セルフエスティーム (平均値, 標準偏差)	16.6	4.9

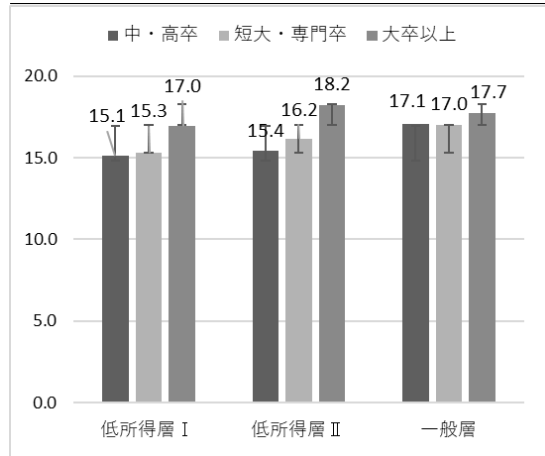


図 1 所得階層×学歴とセルフエスティームの比較

表 2 所得階層 (3 群) と学歴 (3 群) の組み合わせにおけるセルフエスティームの比較

	低所得層 I			低所得層 II			一般層			F値	P値
	中・高卒 n=168	短大・専門卒 n=94	大卒以上 n=26	中・高卒 n=115	短大・専門卒 n=126	大卒以上 n=60	中・高卒 n=117	短大・専門卒 n=289	大卒以上 n=232		
セルフエスティーム スコア	15.1 (5.00)	15.3 (5.2)	17.0 (4.8)	15.4 (4.6)	16.2 (4.4)	18.2 (6.1)	17.1 (4.6)	17.0 (4.1)	17.7 (5.1)	6.71	< 0.001

() : SD

多重比較：一般／大卒以上 > 低 I／中・高卒, 低 I／短大・専門卒, 低 II／中・高卒
 一般／短大・専門卒 > 低 I／中・高卒
 一般／中・高卒 > 低 I／中・高卒
 低 II／大卒以上 > 低 I／中・高卒, 低 I／短大・専門卒, 低 II／中・高卒